

令和3年9月1日

九州医学技術専門学校
校長 城 宏史 殿

学校関係者評価委員会
委員長 金原 俊輔

学校関係者評価委員会報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員

委員名	所属先	役職名	備考
金原 俊輔	長崎ウエスレヤン大学	名誉教授	
中尾 暢隆	長崎医学中央検査室	部長	企業
松野 大輔	長崎セントノーヴァ病院	事務次長	同窓生
梶原 恵	神村学園高等部 大村学習センター	センター長	
奥村 亮子	一社) 日本青少年育成協会 キャリア教育委員会	長崎事業責任者	
前田 陽二	葉山町自治会		元私立高校教諭
松田 一之	長崎みなとメディカルセンター	事務部長	

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 令和3年8月20日(金) 18:00～

(オンライン開催)

学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以上

令和2年度九州医学技術専門学校自己評価をもとに評価

今年度に関しては、コロナ禍にあったため令和2年度前期評価について、坂口教務部長より、学校自己評価の説明が行われたのち、学校自己評価をもとに、項目別でなく、全体的な学生像についての意見が活発に出された。

《 学校教育基本方針 学校教育目標 重点努力目標 》

坂口教務部長より

評価基準は 1～4 にて行う。

目安は下記の通り。

4：十分に達成している

- ・ 目標に対して具体的方策が進行しており、当初の成果が得られていると判断される状態
- ・ 具体的方策を実施であり、漸次その成果を検証しつつある状態

3：おおむね達成している

- ・ 改善に向けて共通理解を持ち、具体的方策の実行に着手しつつある状態
- ・ 改善の必要性に対して理解があり、具体的方策に対して取り組もうとしている状態

2：どちらかという達成されていない

- ・ 改善の方向性は持っているが、共通理解が十分ではなく、全体として停滞が目につく状態
- ・ 改善の方向性を探っている状態

1：ほとんど達成されていない

- ・ 問題意識を持つてはいるが、手つかずの状態
- ・ 現状に満足し、問題意識にまで考えが及んでいない状態

臨床検査科

最大の目標である「臨床検査技師国家試験合格からの全員就職」に向け、1年次より様々な対策を行っている。

その最大目標を達成するための「具体的方策」と「具体的取組」を設定し、それぞれの評価を前期・年度末において行った。

卒業に関しては、昨年度に続き 100%を達成することができず、留年生 5 名が出てしまった。ちなみに昨年度の留年生は 5 名である。

国家試験合格も 100%を達成することができず、昨年度を上回ったが 90.9%に留まった。

国家試験合格後の目標としては「就職」がある。今年度は就職 100%を達成できた。

自己評価結果を保護者・卒業生へ配布を行っておらず、低い評価となっている。
また、内勤教員の授業評価アンケートも現在は実施を行っていない。

医療秘書科

最大の目標は「全員就職」である。そのために各種検定試験合格を目指し、指導に取り組んでいる。

検定試験に関しては、全員合格の資格もあり、全体的に全国評価を上回る結果を出すことができた。

以下は評価に対してご意見を頂戴したところのみ記載。

今後の課題(要望)

- ・進級率、国試合格率が良くなると全てが良い方向に回ると思う。
- ・高齢化社会が進むことに加えて今般のコロナ禍により、検査技師に対する注目・期待と需要はさらに高まると思われる。技術のみならず人格、識見ともに優秀な材の育成が望まれる。
- ・若い人が「早期離職」をしてしまうのは、どこの職場でも頭を痛めていることですので、過度にお気になさらないでいただきたいです。
- ・高齢化社会が進むなか、さらに今般のコロナ禍が加わり医療界における課題や困難さはこれまでになく深化してゆくとと思われる。そうした状況に深い理解を持ちつつ、業務に邁進する人材の育成を望みたい。

その他、気づき

・留年が多いのが気になります。

・コロナ感染対策を行いながらの授業継続と大変な状況です。学生の意欲低下が気がかりです。学生の心のケアが必要だと思います。